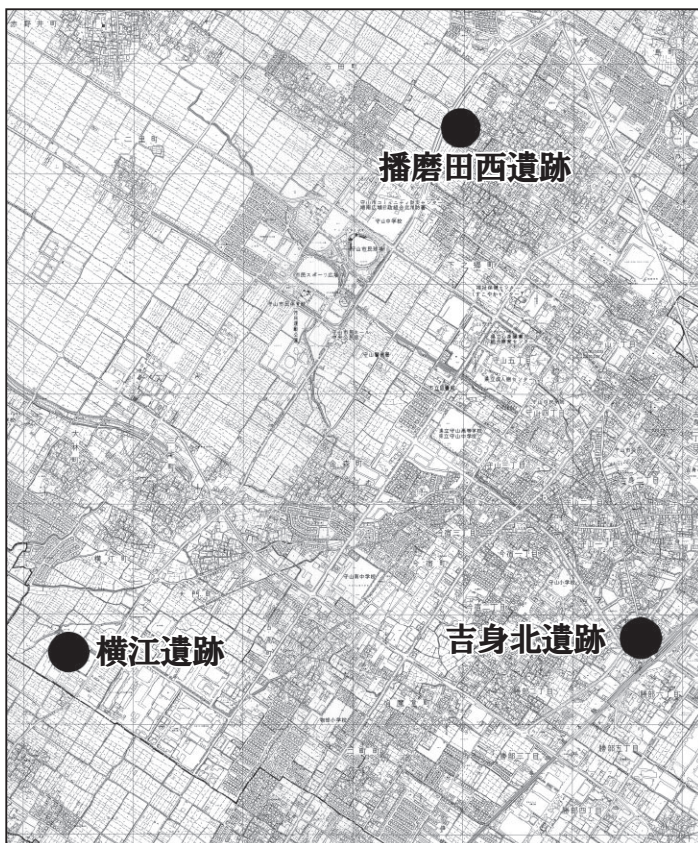


冷たい風が吹きはじめ、季節はいよいよ冬の様相を見せはじめてきました。市内では、現在でも各所で遺跡の発掘調査を行っています。

さて今号の乙貞では、11月までに発掘調査を完了した吉身北遺跡、播磨田西遺跡、横江遺跡の調査成果に加えて、11月3日から11月25日まで開催している埋文センターで開催中の特別展「ムラからクニへー野洲川流域遺跡群の動向ー」の模様について紹介したいと思います。



● 発掘調査の成果 ●

(1) 吉身北遺跡第31次調査

平成24年9月3日から、梅田町地先で実施していた吉身北遺跡の発掘調査は、10月30日をもって終了しました。今回の調査では、かつて調査地にあった建物の基礎が残っており、一部で遺構が破壊されていたものの、その他の部分では良好な状態で遺構が残存していました。

発見できた主な遺構は、古墳時代の^{たてあな}堅穴建物^{もの}2棟、奈良時代の堅穴建物1棟、そして平安時代の溝などがあげられます。

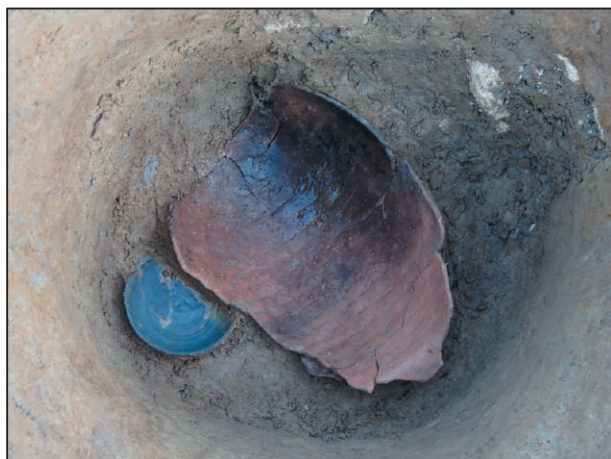
古墳時代の堅穴建物は、建物S60、S170になります。堅穴建物S170は、中心部に^{はりゆか}貼床(建物の床面に粘土を貼って硬く締めたもの)が残存していました。また、北東辺に焼土が広がっていたことから、その位置にカマドが設置されていたと思われます。そしてカマドに隣接して^{ちようぞうけつ}貯蔵穴とみられる^{どこう}土坑を検出し、さ



堅穴建物 S60 完掘状況

らに建物の壁を立てるための周壁溝しゅうへきこうも見つかりました。奈良時代の竪穴建物 S 9 は、平安時代の溝 S 8 に一部破壊された形で見つかりました。この建物には全面に貼床しきやくいし、そして北東辺にカマドえんどうが残存していました。カマドには、煮炊き用の土器を支えるための支脚石や煙道が残っており、かつてのカマド構造を具体的にみることができました。

また今回見つかった古墳時代の竪穴建物 S60、S170 からは、それぞれ滑石製の白玉かつせき うすだまが出土しています。ただし、出土量はごくわずかのため、この建物で製作されたものではないと考えられます。他にも奈良時代の建物 S 9、平安時代の溝 S 8 から少量ながら出土が見られましたが、これらの白玉は遺構に伴うものではなく、遺構の廃絶後、埋土に混入したものと



竪穴建物 S 170 貯蔵穴（土坑 S182）



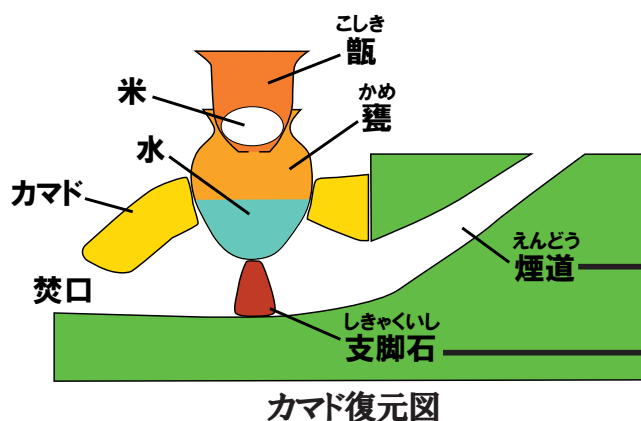
竪穴建物 S 170 完掘状況

考えられます。ただし、白玉の中には製作途中の未完成品もみられることから、調査地の近辺には玉作りの工房があったことがうかがえます。

今回の調査では、古墳時代、奈良時代における集落の広がりが把握でき、また近辺に古墳時代の玉作り工房の存在が想定することができました。特に、古墳時代中期から後期にかけて盛んになる野洲川流域における玉作りの一端を見ることができたのは非常に重要な成果といえるでしょう。（木下）



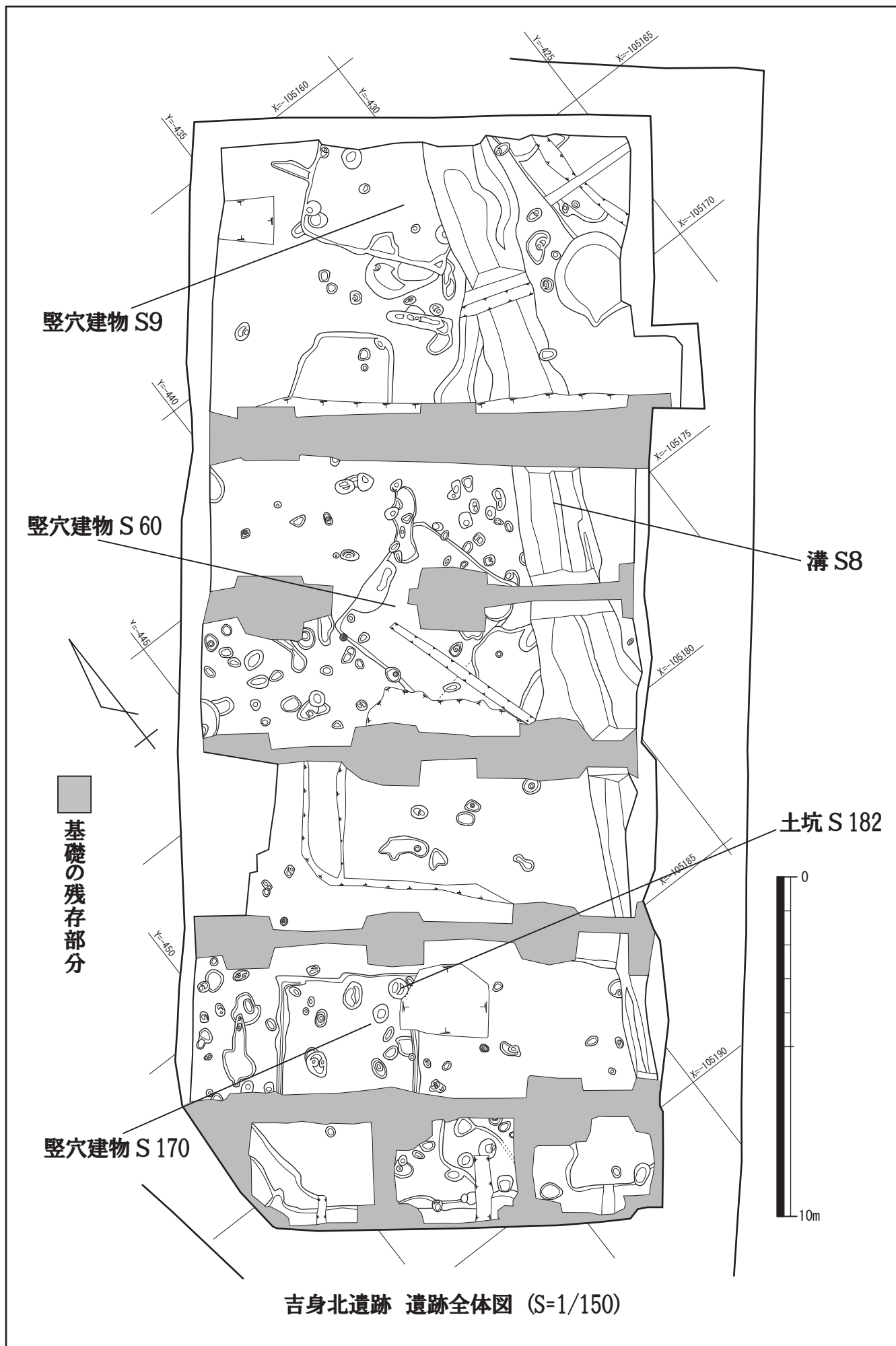
竪穴建物 S9 完掘状況



カマド復元図



竪穴建物 S9 カマド



(2) 横江遺跡第8次調査

大門町地先において、10月10日～31日の期間で、工場棟建設に先立って、約230㎡を対象に発掘調査を実施しました。

遺構は、茶灰色粘土を埋土とする溝、土坑、ピットを検出しました。しかし、どの遺構からも遺物が出土せず、時期を特定することはできませんでした。今回の調査地周辺では、約20年前に試掘調査を実施していましたが、その際に縄文時代の遺物が見つかっており、周辺域にはその時代の集落が存在しているものと思われます。（畑本）



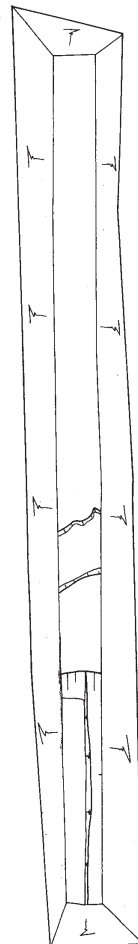
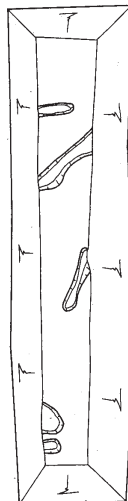
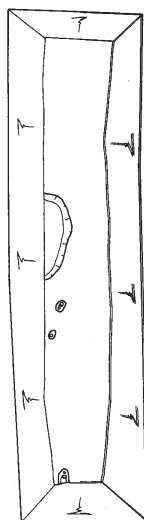
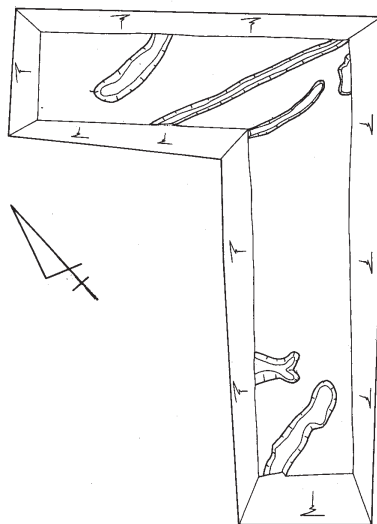
横江遺跡 全景①



横江遺跡 全景②



横江遺跡 全景③



横江遺跡 遺構全体図 (S=1/150)

(3) 播磨田西遺跡第9次調査

播磨田町字竹花において、宅地造成工事に伴い発掘調査を実施しました。調査は3箇所の調査区（T-1～3）を設定し、行いました。調査の結果、T-1区からは平安時代～中世（鎌倉時代～室町時代）を中心とした溝や柱穴、T-2区からは中世の溝（自然流路か）が見つかりました。また、T-3区からは中世の小溝や土坑のほか、井戸と見られる遺構が3基見つかり、土師器はじきさら皿や黒色土器こくしよくどき碗わんなどの土器をはじめ、木製の箸や曲物の蓋（底）板が出土しました。

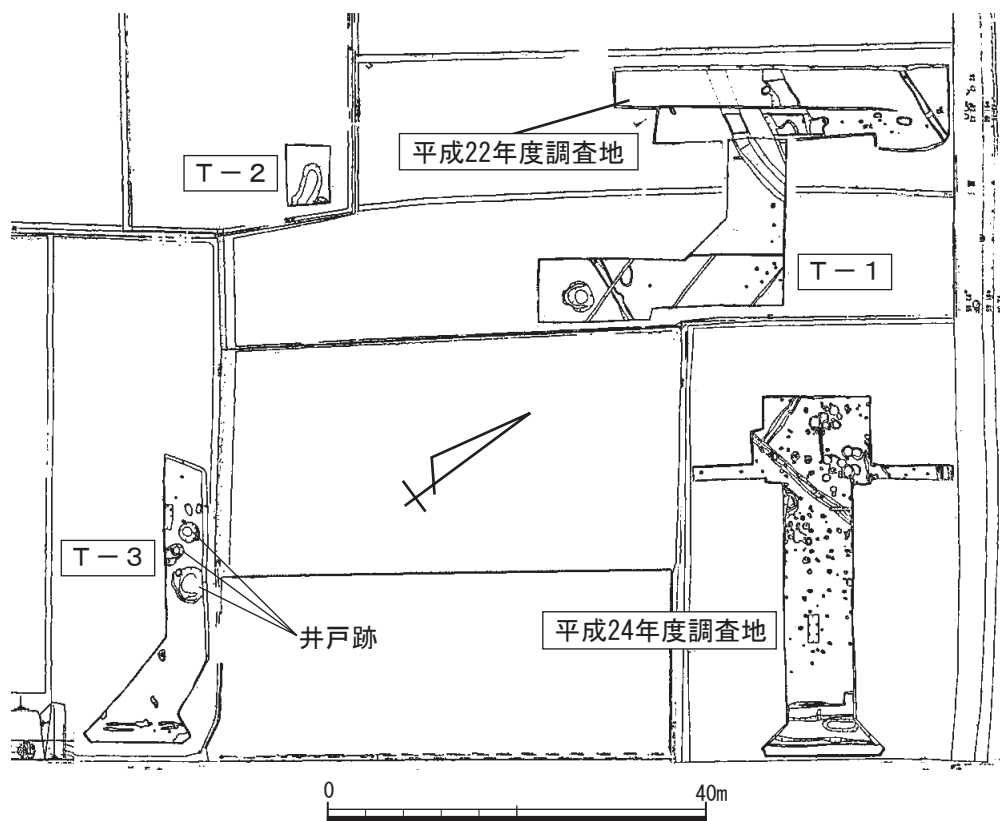
平成22年と平成24年の夏に行った隣接地の調査でも、平安時代後期～中世にかけての建物跡や溝跡などが検出されており、当該期の集落跡がこの地点に広がっていることが確認されています。そして遺構の検出状況から、屋敷を区画割りして集村する集落ではなく、居住地（屋敷）が分散するタイプの集落であったと考えられます。（小島）



播磨田西遺跡 T-1全景①



播磨田西遺跡 T-3全景②



播磨田西遺跡 遺構全体図 (S=1/800)

● 埋文センターの催し物 ●

(1) 秋季特別展が開催

11月3日（土）から11月25日（日）にかけて埋文センター秋季特別展を開催しています。今回は「伊勢遺跡国史跡指定記念『ムラからクニへー野洲川流域遺跡群の動向ー』」と題し、野洲川流域に展開する遺跡群の動きの中で、どのように伊勢遺跡が出現し、発達したのかを紹介しています。実際に発掘調査の中で見つかった伊勢遺跡の大型建物の柱などを中心に、滅多に見ることのできない遺物の数々を展示しています。この機会にぜひ、守山の誇る宝物の数々をご覧ください。

小菊盆栽展 同時開催中
(※特別展の期間中)

埋蔵文化財センター秋季特別展
伊勢遺跡国史跡指定記念
「ムラからクニへ
ー野洲川流域遺跡群の動向ー」
平成24年11月3日（土）～11月25日（日）
期間中無休
入館料無料



(2) 秋の体験学習

11月10日（土）に、特別展関連行事として、体験学習「伊勢遺跡の^{まがたま}勾玉をつくろう」を開催しました。

野洲川流域では、古墳時代中期から後期にかけて、^{かっせき}滑石と呼ばれるやわらかい石を使った玉作りが盛んでした。伊勢遺跡では、^{へきぎよく}滑石や碧玉で作られた^{くだたま}勾玉と管玉を組み合わせた首飾り（古墳時代前期）が出土しています。

参加者は、滑石をヤスリなどで加工し、伊勢遺跡で出土したような小型の勾玉など、大小さまざまな勾玉を作っていました。親子一緒に頑張って、この世にふたつとない自分だけの勾玉が出来上がりました。



伊勢遺跡出土 首飾り



機関紙「乙貞」は守山市のホームページ（<http://www.city.moriyama.lg.jp>）からも閲覧できます。